

幼児教育と小学校教育の接続について

実践での協働連携やカリキュラム、子どもを見る視点の共有

学校法人中山学園
認定こども園あかみ幼稚園
理事長 中山昌樹

はじめに ローカルな背景

栃木県佐野市

- 推計人口（2021年11月1日） 115,170人
- 出生数
 - 令和2年10月から令和3年9月まで677人
 - 令和元年10月から令和2年9月まで692人
 - 平成30年10月から令和元年9月まで740人
- 保育施設
 - 公立保育所 11 民間保育所 8 認定こども園（民間） 10
 - 小規模保育事業（民間） 12 幼稚園（民間・私学助成） 3

保育施設の設置状況等から、教育委員会はリーダーシップを取りにくい。
一方今年4月に新市長が誕生し、今後の子ども政策が注視される。



1. 1つの取組 小学校との接続プロジェクト [幼児教育の実践に関する委員提出資料 \(mext.go.jp\)](https://www.mext.go.jp)

平成27年にスタート。きっかけは卒園児（1年生）が「学力」をめぐって辛い小学校生活を送っているという保護者からの相談。栃木県幼児教育センターの指導から「接続」の取組を進めることになった。県の後押しもあり、佐野市教育委員会の協力も得ることができた。取組がどのような形で可能となるのかを明らかにし、さらに一歩進めて接続の障壁をどう超えるのか、そこで何が見えてくるのかを追求するのが目的。単なる小学校への適応対策とならないことに心がけた。県市の指導主事等からの指導を踏まえながら、幼児教育と小学校教育の違いにもフォーカス。初年度は年間8回の研究会を開催。保育と授業の相互参観を基本としつつ、実践のエピソード化からアプローチカリキュラム・スタートカリキュラム（一体化した接続カリキュラム）を開発。2年目以降は、相互参観に加えて年3回の研究会（カリキュラム・マネジメント）。

課題は継続（教員の異動や担当行政の在り方）と広がり（市内幼児教育全体 の質向上・ばらつきの是正が課題）である。

2. まず見えてきた、幼児教育と小学校教育の違い

- 園児・児童の発達に基づいたそれぞれの原理・原則
 - 環境を通して行われる教育・遊びを通しての総合的な指導（幼）
 - 言語を大切にし「授業」を中心とした指導（小）
- 目標の違い
 - 方向目標（幼）と到達目標（小）
- 「めあて」と「手立て」の共有
 - 遊びの面白さを追求し、結果として得られる学び（幼）
 - 学びの「めあて」と「手立て」を児童と教師が共有（小）
- 生活における活動・取組
 - その必要性が園児自身の内面にある（幼）
 - 「黄金の三日間」における教師主導の係決め（小）
 - ・・・これについては指導主事の助言で、係（黒板係）を決めず、生活の中にその必要性が見られるまで待つことでスタート

3. カリキュラムを構成する枠組み

【カリキュラム構成の枠組み】

(知) 学びの芽生えの軸

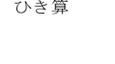
(徳) 協同性の育ちの軸

(体) 生活の自立の軸

- ・・・OECD・e2030では、日本の教育で伝統的に重視されている 知・徳・体の枠組みが、大変優れていると指摘されたと聞く

カリキュラムの実際 その1

【知】 学びの芽生えの軸 目的を持って遊びや活動、学習に向かったり、子ども自身が持つ願いを実現しようしたりする、自ら学ぶ力

幼児期	1月	2月	3月	接続期	4月	5月	6月	児童期
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 卒園製作・かまたき 粘り強さ 土の科学的变化 イ、カ、コ</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>②動物の飼育 仕事の活動 イ、エ、キ</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; font-size: 2em; font-weight: bold;"> 期待・憧れ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生活科 ウ、エ、キ、ク、ケ、コ 【学校に慣れるための学び】 学校大すき 学級開き、自己紹介 あいさつと返事 学校めぐり、校庭めぐり 花を育てよう  読み聞かせ(国) 校歌、手遊び(音) 学習のきまり 話の聞き方・話の仕方 鉛筆の持ち方 ノートの使い方 あいうえお、名前(国) 1～10(算)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生活科 ウ、エ、オ、ケ 【学校や先生を知るための学び】 学級探検  学級活動 オ、ク、ケ、コ 遠足 </p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生活科 エ、オ、ク 【学校の周りを知るための学び】 通学路を歩こう  学級活動 カ、ケ 係活動 </p> </div> </div>								
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>③本物らしいごっこ遊び(レストランごっこなど) 人間関係・文字・数・協同的な学び ア、イ、ウ、エ、オ、カ、ク、ケ、コ </p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>④コマ回し 自己コントロール ・回転 ア、イ、エ、カ </p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑤学校ごっこ 文字への興味 机に座って行う期待 ク、ケ </p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>国語・算数 ク、ケ 物語文、文づくり なんぼんめ、数の構成 図書室の利用 </p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>国語・算数 カ、ク、ケ、コ 説明文 体験談を伝える たし算 ひき算</p> </div> </div>								
<p>大切にしたい子どもの姿</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分の身体部位を考え描き、粘土がセラミックになる工程を体験し、科学変化に触れる。 楽しみだが毎日“やらなくてはならない”動物との暮らしを自覚しながら、仕事の活動をやり遂げる。生き物係へのつながりを期待。 本物らしさを追求するために、素材を工夫し仲間と意見を出し合い、文字・数に触れながら、作り上げていくことに達成感を味わう。役割分担をする、知的好奇心を広げ、目的に合った手段として、必要な道具を選んで使う楽しさを感じる(のり・絵の具・はさみなど)。 コマを回すために、ひもの巻き方・投げ方を試行錯誤しながら取り組む。 机に座って、文字を書くなどへの期待感を持つ。 								
<p>日常の指導・具体的配慮等</p> <ol style="list-style-type: none"> 身体の一部に気付くような言葉かけをし、身体認知として気付かせる。また、自分で壁を乗り越えるための援助をし、達成できた喜びを共感し自信へとつなげる。 飼育の仕方をしやすくするための環境を設定し、子どもたち自ら、動物の変化に気づくように、保育者自ら、動物と触れ合う。 本物に近づけるための素材を準備し、必要な物に気付かせ、文字・数に対する興味を後押しするような環境を整える。必要に応じて図鑑や資料などを配置し、子どもが自ら調べ遊びに取り入れられるようにする。 回すコツがつかめるよう、モデルを示し、回したい気持ちを高めて、回せたことでの達成感を味わい、自信へとつなげる。 期待だけでなく、緊張感を抱く子もいると予想されるので、配慮が必要。 								
<ul style="list-style-type: none"> 席に座ったり時間を守って動いたりするなど、今までとは異なる学校の生活を知ろうとする。 新しい友達や先生に自分を知ってもらおうとする。また、新しい友達と関わろうとする。 クラス全員で歌を歌ったり、校外で楽しく活動したりすることで、一体感を感じる。 クラスのみんなのために働くことに楽しさを感じる。 赤見小学校に関することをたくさん知りたい。 小学生らしく、机の前で正しく鉛筆を持って勉強したい。勉強ができるようになりたい。 図書室の本をたくさん読みたい。 								
<ul style="list-style-type: none"> 温かい雰囲気作りに努め、一人一人の違いを認め、できたことを褒め、学級での居場所を作る。 学校のきまりについて、分かりやすく説明し理解させる。 校外での活動を通して、公共施設での正しい行動の仕方を理解させる。 子どもたちのやりたいと思う気持ちを大切に、自発的な係活動を促す。 赤見小学校を巡り、様々な施設や先生たちに出会い、赤見小学校について多くのことを知る喜びを感じさせる。さらに、多くの人に支えられて安心して遊びや生活ができることに気付かせる。 自分から「話し方名人・聞き方名人」になりたいと思うように、その良さに気付かせる。 正しい鉛筆の持ち方で、丁寧な文字でノートをとるように習慣化させる。 読み聞かせを通して本に親しみをもたせ、図書室で様々な本に出会わせる。 								

カリキュラムの実際 その2

【徳】 協同性の育ちの軸 様々な人と関わり合いながら自己を発揮し、共に生活を作りだす力

幼児期	1月	2月	3月	接続期	4月	5月	6月	児童期
<p>具体的活動例</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 25%;"> <p>① かまたき 地域との関わり (ファーム部とのかかわり) オ</p>  </div> <div style="width: 25%;"> <p>②動物の引き継ぎ 異年齢とのかかわり エ、イ、キ、ケ</p>  </div> <div style="width: 25%;"> <p>④ルールのある遊び (ドッチボール) 規範 ア、イ、ウ、エ、ク、ケ</p>  </div> <div style="width: 25%;"> <p>⑤キッズフェスティバル (劇活動) 合意の形成 必要なもの に気づく イ、ウ、カ、ケ、コ</p>   </div> <div style="width: 25%; text-align: center;"> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">期待・憧れ</p> </div> <div style="width: 25%;"> <p>生活科 イ、ウ、エ、オ、ケ 学級開き 友達づくり あいさつ 返事の仕方 2年生との学校探検 1年生の学校探検 (先生方にインタビュー) (見つけたことの発表)</p>  <p>1年生を迎える会 (児童会) なかよしの日 (異学年共遊)</p>  </div> <div style="width: 25%;"> <p>学級活動 ア、イ、ウ、エ、オ、ケ 遠足 係活動 (グループ活動)</p>  <p>生活科 ア、ウ、オ、キ 公園で遊ぶ (公共の場所)</p> <p>児童会 ウ、オ 大先輩と遊ぶフェスティバル (地域の人に昔の遊びを教えよう)</p>  </div> </div>								
<p>大切にしたい子どもの姿</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域の大人と一緒にやって行くことで、親・保育者とは違う人との関わり。 ② 次の年長としての期待をしながら、自分たちで作った動物の飼育の仕方を伝える。 ③ 小集団の中で、自分の思い・相手の思いに気づき、様々な言葉で伝え、受け入れながら、形にしていける楽しさ。 ④ 大人数で遊びを面白くするために、ルールを考えそれを守ろうとする。 ⑤ クラスの仲間と一つの劇を完成するという目的のために、自分の意見を伝え、相手の意見を取り入れ、お互いに折り合いをつけ、本物らしく工夫し、作りあげる楽しさを感じる。 								
<p>日常の指導・具体的配慮等</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域の方に協力をお願いし、共に子どもたちのために力を発揮することの喜びを感じてもらえるようにする。 ② 年長組の誇りを自覚しつつ年中組の憧れ・不安な気持ちに配慮できるよう、飼育の仕方などの“効果”について、気付かせるようにする。 ③ かっぱ伝説の存在によって、仲間の必要性を感じるようにする。お互いの意見が出せるような環境を作り、グループで力を合わせ一つのことを成し遂げる喜びを感じられるようにする。 ④ ルールの必要性に気付かせ、共有し、ルールを守ることが遊びを面白くすることに気付かせる。 ⑤ 視覚的に掲示したり、保育者自身が実際に登場人物の動きをやってみたり、子どものイメージを具体的な形にすることで、劇の物語を共通のものにする。そして、達成感を味わえるようにする。 								

- ・相手のことを考えて行動し、みんなが気持ち良く過ごせるようにする。
- ・赤見小に関するを知りたい。分かったことを伝えたい。主体的に取り組もうとする。
- ・様々な人と関わって、楽しく学校生活を送ろうとする。

- ・あいさつや返事を実際に練習し、気持ちのよいあいさつや返事を実感させる。
- ・グループで一緒に話し合ったり遊んだりする活動を通して、よりよい人間関係が築けるようになる。
- ・学級の仕事の必要性に気付かせ、自主的に係活動に取り組めるようにさせる。
- ・人への接し方やマナーなどを考えて行動するようにさせ、学校の人と仲良くなるようにする意欲やみんなのものを大切にしようとする意識を高めるようにさせる。
- ・上級生や地域の人と一緒に活動することを通して、人と関わることの楽しさを味わったり、感謝する気持ちをもたせたりする。

カリキュラムの実際 その3

【体】生活の自立の軸 子ども一人ひとりが、身辺自立や、対象に自ら関わり暮らしを作りだそうとする力

幼児期	1月	2月	3月	接続期	4月	5月	6月	児童期
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>具体的活動例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>① 給食当番 自主・自立の活動</p> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">イ、エ、ケ</div>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>②動物の飼育 仕事の活動 思いやり</p> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">イ、エ、キ、ケ</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="text-align: center;"> <p>動物の引き継ぎ</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>異年齢の関わり</p>  </div> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>③学校ごっこ</p> <p>期待 学校の雰囲気を知る</p> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">オ、ク、ケ</div>  </div> </div> <div style="width: 35%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; font-size: 2em; font-weight: bold;">期待・憧れ</div> </div> <div style="width: 30%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>生活科 ア、イ、ウ、エ、ケ</p> <p>給食の準備・配膳の仕方 身の回りの整理整頓 (朝の準備・くつ・ロッカー) 休み時間の過ごし方 下校班の並び方 トイレや水道の使い方 着替えの仕方 遊具の使い方 整列の仕方 赤見っ子マラソン 身支度 清掃の仕方 きをつけ・礼・座り方</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>給食当番、清掃の仕方 遠足 (バスの乗り方) 朝の会・帰りの会の進め方・日直の仕事</p>  </div> </div> <div style="width: 30%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>学級活動 ウ、エ、ケ</p> <p>係活動 雨の日の過ごし方 歯みがきの仕方</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>生活科 ア、エ、オ、ク</p> <p>通学路を歩こう</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>体育 ア、エ</p> <p>プール開き</p>  </div> </div> </div>								
<p>大切にしたい子どもの姿</p> <p>① 5歳児になってできるというあこがれからやりたい子から始め、時間をかけて、クラスのみんなで当番としてやることに決めていく過程を大切に。仲間の食事のために自分たちの仕事が役立っていると実感する。当番でやる中で、起こる問題を解決する手段を考える。</p> <p>②楽しみだが毎日“やらなくてはならない”動物との暮らしを自覚し、その具体的なやり方を、年中児（4歳児）に伝える。</p> <p>③「起立・礼」や「前ならへ」などに“小学生らしさ”を感じ、進学を楽しみに感じる。</p>								
<p>日常の指導・具体的配慮等</p> <p>①当番にする必要性が感じられるような声掛けと、実際に配膳をする中で、相手の欲求や人数によって量や数を調整する必要がある事に気付かせ、自分たちで生活を作っていく達成感を味わう。</p> <p>② 動物の世話の大切さを確認し、その必要性が年中組に伝えられるような配慮をする。</p> <p>③進級の期待には個人差があることから、特に不安な気持ちを表す幼児には、その事がらについて個別に対応し、写真などで視覚的に伝え安心感を与える。</p>								
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分でできることに喜びを感じる。 ・安全に気を付け、けがをしないで元気に過ごそうとする。 ・学校の仕事を進んでやることで、みんなの役に立っていることにうれしさを感じる。 ・目標に向かって、マラソンや水泳に頑張って取り組んでいる。 								
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことが自分でできるように、時間、場所、量、順番、方法、きまり等を具体的に示すが、子どもたちの提案も取り入れる。 ・学校生活や登下校で安全に過ごせるように、ルールやマナーを守る意識を高めるように指導する。交通標識や子ども110番の家についても教える。 ・体を動かすことの楽しさや体を清潔にすること、体力増進の大切さに気付かせ、目標をもって健康に過ごすようにさせる。 								

大切にしたい子どもの姿

- ① 5歳児になってできるというあこがれからやりたい子から始め、時間をかけて、クラスのみんなで当番としてやることに決めていく過程を大切に。仲間の食事のために自分たちの仕事が役立っていると実感する。当番でやる中で、起こる問題を解決する手段を考える。
- ②楽しみだが毎日“やらなくてはならない”動物との暮らしを自覚し、その具体的なやり方を、年中児（4歳児）に伝える。
- ③「起立・礼」や「前ならへ」などに“小学生らしさ”を感じ、進学を楽しみに感じる。

日常の指導・具体的配慮等

- ①当番にする必要性が感じられるような声掛けと、実際に配膳をする中で、相手の欲求や人数によって量や数を調整する必要がある事に気付かせ、自分たちで生活を作っていく達成感を味わう。
- ② 動物の世話の大切さを確認し、その必要性が年中組に伝えられるような配慮をする。
- ③進級の期待には個人差があることから、特に不安な気持ちを表す幼児には、その事がらについて個別に対応し、写真などで視覚的に伝え安心感を与える。

- ・自分のことは自分でできることに喜びを感じる。
- ・安全に気を付け、けがをしないで元気に過ごそうとする。
- ・学校の仕事を進んでやることで、みんなの役に立っていることにうれしさを感じる。
- ・目標に向かって、マラソンや水泳に頑張って取り組んでいる。

- ・自分のことが自分でできるように、時間、場所、量、順番、方法、きまり等を具体的に示すが、子どもたちの提案も取り入れる。
- ・学校生活や登下校で安全に過ごせるように、ルールやマナーを守る意識を高めるように指導する。交通標識や子ども110番の家についても教える。
- ・体を動かすことの楽しさや体を清潔にすること、体力増進の大切さに気付かせ、目標をもって健康に過ごすようにさせる。

終わりに 今後の課題

1. 幼児教育（例えば「環境を通して行う教育」）の分かりやすさ
2. それは架け橋プログラムを稼働させる際の教材・研修の分かりやすさ
3. 小学校の教師や親・保護者達に伝わるか・・・動画は使えるか
4. いくつかのモデル事業でタイプ分けをする必要性
5. 教育委員会等が主導できる地域、民間ベースで何でもありの地域などに対応
6. 後者では、親・保護者との協働は必須・・・園児募集で何でもありになってしまふ
7. 事業評価をどう行うか
8. 接続期のカリキュラムのカリマネに加えて、園児・児童や親・保護者へのアンケート（インタビュー） 指標は？
9. 取組を支えるプラットフォーム の必要性